

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB (SeminarⅡB)		授業コード	E002514
担当教員名	竹田 隆行		科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	ゼミは、発表・討論を通じて学ぶ場です。ゼミ生は、スポーツに関連するビジネス環境を注意深く観察し、自分なりの問題意識を持って毎回のゼミに出席して下さい。疑問に思ったことは必ず質問して下さい。聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥です。			
教科書				
参考文献及び指定図書	ゼミで案内します。			
関連科目	スポーツビジネス・マネジメント概論、スポーツ経営学、地域とスポーツ			

授業の目的	<p>ここ数年、スポーツの専門化、多様化により、スポーツビジネスが注目されるようになってきました。スポーツビジネスの領域は、オリンピックやFIFAワールドカップのようなビッグビジネスから地域レベルのスポーツ事業と非常に幅があります。</p> <p>しかし、基本的なビジネス手法は同じです。ただ、それぞれのスポーツが持つ特有の性質をうまくミックスしていかなければなりません。</p> <p>我が国のスポーツビジネスは、これからのビジネスです。学問としても新たな領域です。本ゼミでは、ケーススタディを通じて、現象を蓄積していき学問として体系化を図るとともに、ビジネスモデルの構築を目指します。</p>
授業の概要	スポーツビジネス(マネジメント)について学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第2週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第3週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第4週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第5週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第6週：テーマを設定して議論する	課題・確認
第7週：テーマを設定して議論する	課題・確認

第8週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第9週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第10週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第11週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第12週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第13週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第14週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
第15週：テーマを設定して議論する	課題・確認	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに講義にのぞんで欲しい。
【知識・理解】	物事を論理的に理解して欲しい。
【技能・表現・コミュニケーション】	コミュニケーション能力を磨いて欲しい。(他者の言葉を理解する。自分の考えを論理的に表現する)
【思考・判断・創造】	これまで学んだことを活かして、スポーツの更なる可能性を見いだして欲しい。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。			50点	

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			20点
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	講義の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。